

一周忌法要 表白

敬つて

大慈大悲の阿弥陀如来の尊前に

白して言さく

本日ここに

有縁の人びと 相集い

恭しく尊前を荘厳し

懇ろに聖典を読誦して

法名 釈 の

一周忌法要を勤修し奉る

それ惟れば

我ら 煩惱を具足せる凡夫

無始より已来

生死に流転して 出離の縁あることなし

ここをもつて

阿弥陀如来は

大悲の誓願を超え

一切の衆生を済度して

浄土に生ぜしめんと欲す

「和讃」に言く

如来の作願をたづぬれば

苦悩の有情をすてずして

回向を首としたまひて

大悲心をば成就せりと

我ら今 幸いに

大悲の願船に乗じて

光明の広海に浮かび

至徳の風にまかせて

安養の浄土に往生せんとす

人界に生を享し果報

これに過ぐるものなし

故人 浄土に往生し給いてより

既に 一周忌

今も その遺徳は尽くることなく

尊き聞法の縁を与え給う

ねが
希わくは

さんけい ひとびと

ここに参詣の人々

はる

こじん しの

遙かに故人を偲びつ

げんしやう

現生には

ほんがんねんぶつ

だいどう あゆ

ともに本願念仏の大道を歩み

とらひ

当来には

おうじやうじやうど

そかい と

往生浄土の素懐を遂げて

く え い つ し よ

みやう か

俱会一处の妙果を得んことを

ふ

伏して請う

さんぼうあいみんのうじゆ

たま

三宝哀愍納受し給え